神戸女子短期大学　論攷　60巻　91－99（2015）

－資　料－

表現力豊かな演奏をするための自由曲の選択

廣　田　周　子

Selecting Piano Pieces for Expressive Piano Performances

Chikako HIROTA

要　旨

ピアノ演奏で表現力豊かな演奏を目指すためには，初級者段階から，技術修得に偏らず，表現を目指した多くの作曲家の練習曲や小曲集を積極的に取り入れ，表現することの経験を重ねていくことが重要である。

キーワード：ピアノ曲の選択：selecting piano pieces
豊かな表現力：the ability of rich expression
練習曲：etudes　小曲集：piano pieces

１．はじめに

幼稚園免許や保育資格にとって必修科目である「音楽（器楽）」を，本学では１年次前期「音楽（器楽）Ａ１」，１年次後期「音楽（器楽）Ｂ」を必修科目とし，２年次前期「音楽（器楽）Ｃ」を選択科目として開講している。３学期を通しての学習課題を，「表現のためのピアノ曲集」[1)]「こどものうた200」[2)]の２冊の共通教則本と，「学生個々の能力技量に合わせて教員指導の下に選択した作品」の３種類としている。現幼児教育学科の前身の初等教育学科では，学習教材は指定した３種類の共通の教則本を使用していた。2009年に幼児教育学科になってから学習教材を共通教則本２種類とし，１種類を自由曲として選択肢を増やした。そこでピアノ演奏における表現力をつけるために，どのような教則本や，どのような作曲家の作品の学習を行ったかを，2009年度から2013年度入学生の「音楽（器楽）Ａ１・Ｂ・Ｃ」の実技テスト自由曲の集計をすることで調査した。ここで言う自由曲とは，指定された教則本以外から，指導者が学生の学びに適切なものを選択した曲や曲集である。

一般にピアノの初心者への導入指導は，現在では数多くの指導書が発行されており，必ずしもすべての人が同じような経緯（教材）でピアノを学習していない。その理由は，教材出版の非継続性，音楽教室などでのオリジナル指導書の普及，販売網の地域差によることに加え，指

導者の考え方が大きくかかわると考えられる。個々の学生の技量にも当然大きな差がある。そこで本学では日本のピアノ教育で古くから普及している「標準バイエルピアノ教則本作品101」[3)]（以後「バイエル」と表記する）を基準にして入学前のアナウンスを行い，できるだけ「バイエル」の修了，あるいは他の教則本であっても同程度レベルを修了することを勧めている。修了していない学生は入学後も継続して授業内外で学習している。また「バイエル」や「ブルグミュラー（1806～1874）25の練習曲　作品100」[4)]（以後「ブルグミュラー」と表記する），「ソナチネ　アルバム」[5)]等の教則本などをすでに早々と終了し，「ソナタ　アルバム」[6)]他など，中・上級者対応の作品の演奏を日常としているものも多くあるが，本稿では「バイエル」修了程度で，演奏基礎技術は修得しており，その後のより豊かな表現力の修得を必要とする初級者，中級者がどのような形で学習を続けることが望ましいかを考える。ピアノを学習するときに，技術的な修得とともに表現力をつけることは，車輪の両輪のように同等に必要不可欠なことであり，保育者養成校におけるピアノ学習で最も心がけておきたいことである。

２．現状

次の集計表は，実技テストで演奏される曲を，学生の入学年度別に１年次前期「音楽（器楽）Ａ１」，１年次後期「音楽（器楽）Ｂ」，２年次前期「音楽（器楽）Ｃ」の科目別に出典ごとの数を調べたものである。表にあるように，入学直後の１年次前期「器楽Ａ１」では，「バイエル」から選択したものが36～46％，１年次後期「器楽Ｂ」では16～32％，２年次前期「器楽Ｃ」では７～16％と学期の経過に伴い減少していく。

「ブルグミュラー」は初級者でも学習可能な作品100と，中級者のための作品109があり，それらを合わせて，１年次前期では30～41％，１年次後期41～60％，２年次前期では41～57％となる。１年次後期に大きく増加し，２年次前期は同レベルで継続する。これは１年次前期に「バイエル」を修了し，１年次後期には「ブルグミュラー」に進んだ学生が多く，２年次前期においても継続して「ブルグミュラー」を学習しているものが同様に多くいる。合計数の割合から見ると全体の半数近くあり，年度によっては半数を超えている。多くの学生が３学期間に「バイエル」から「ブルグミュラー」へ学習課題を進め，「ブルグミュラー」から始めた者は「ブルグミュラー　18の練習曲　作品109」や「ソナチネ　アルバム」へ学習課題を進めていることがわかる。

「ソナチネ　アルバム」では学期ごとの増加は「ブルグミュラー」の場合ほど著しくはない。全体の総件数で多くはないが，卒業後の進路によって，「ソナチネ　アルバム」を演奏する力を求めらる場合もあり２年前期には30％前後の学生がテスト曲として選曲している。

上記以外，「ソナタ　アルバム」やその他の作曲家の作品は３学期間を通して少なく，全体の11％である。

入学年度	2009						合計数	%	2010						合計数	%	2011						合計数	%	2012						合計数	%	2013						合計数	%	2009~2013平均
年次	1年次前期		1年次後期		2年次前期				1年次前期		1年次後期		2年次前期				1年次前期		1年次後期		2年次前期				1年次前期		1年次後期		2年次前期				1年次前期		1年次後期		2年次前期				
履修科目名　音楽（器楽）	A1	%	B	%	C	%			A1	%	B	%	C	%			A1	%	B	%	C	%			A1	%	B	%	C	%			A1	%	B	%	C	%			
バイエル	34	37%	11	16%	7	13%	52	24%	38	36%	22	24%	14	16%	74	26%	40	36%	22	21%	11	11%	73	23%	47	41%	25	24%	7	7%	79	25%	54	46%	33	32%	14	14%	101	32%	26%
ブルグミュラー　作品100	34	37%	36	51%	19	37%	89	42%	46	43%	42	46%	38	43%	126	44%	33	30%	43	41%	45	47%	121	39%	44	38%	55	53%	49	51%	148	47%	38	32%	32	31%	36	36%	106	33%	41%
ブルグミュラー　作品109	0	0%	2	3%	2	4%	4	2%	0	0%	0	0%	1	1%	1	0%	0	0%	1	1%	4	4%	5	2%	3	3%	7	7%	6	6%	16	5%	10	8%	10	10%	6	6%	26	8%	3%
ソナチネアルバム	11	12%	8	11%	16	31%	35	16%	11	10%	8	9%	27	30%	46	16%	22	20%	28	27%	29	30%	79	25%	14	12%	12	12%	23	24%	49	15%	8	7%	15	15%	32	32%	55	17%	18%
ソナタアルバム	3	3%	4	6%	3	6%	10	5%	1	1%	4	4%	5	6%	10	3%	4	4%	5	5%	2	2%	11	4%	1	1%	2	2%	3	3%	6	2%	0	0%	2	2%	5	5%	7	2%	3%
その他初級者用作品*1	4	4%	5	7%	2	4%	11	5%	2	2%	8	9%	3	3%	13	5%	3	3%	0	0%	1	1%	4	4%	4	3%	2	2%	1	1%	7	2%	3	3%	2	2%	1	1%	6	2%	3%
その他既修者用作品*2	5	5%	4	6%	3	6%	12	6%	8	8%	7	8%	3	3%	18	6%	9	8%	5	5%	4	4%	18	6%	3	3%	1	1%	8	8%	12	4%	5	4%	9	9%	5	5%	19	6%	5%
合計	91		70		52		213		106		91		89		286		111		104		96		311		116		104		97		317		118		103		99		320		
*1および*2作曲者	バッハ6				メンデルスゾーン1				**ギロック8**				ヘンデル1				ハイドン5				シューベルト1				**ギロック7**				シベリウス1				モーツアルト5				アンダーセン1			
	ショパン5				湯山昭1				ハイドン8				湯山昭1				バッハ4				田丸信明1				モーツアルト3				ヘンデル1				**カバレフスキー5**				ショパン1			
	ハイドン4				ブラームス1				モーツアルト5				ランゲ1				**ギロック4**				ストリーボッグ1				ショパン3				ハチャトリアン				**ギロック5**				シューマン1			
	モーツアルト4								バッハ4				平吉毅州1				ショパン4				ベートーベン1				ハイドン3								ドビュッシー3				リスト1			
	ギロック4								**カバレフスキー4**				チャイコフスキー1				モーツアルト4				クラック1				チャイコフスキー2								ベートーベン3				シューベルト1			
	シューマン3								ベートーベン3				シューマン1				シューマン3								バッハ2								メンデルスゾーン2				ツェルニー1			
	ベートーベン2								マクダウェル1				ショパン 1				ドビュッシー2								シューマン1								バッハ2							
	カバレフスキー2								ショスタコーヴィチ1								ツェルニー1								フォーレ1								チャイコフスキー1							

3．ブルグミュラー　25の練習曲　作品100

2．現状でみるように，多くの学生が「バイエル」から「ブルグミュラー」を学習しつつ，あるいはしたのちに，保育実習や就職後の現場に立っていると思われる。そこで，総件数の約45%で演奏される「ブルグミュラー」では，「練習曲」でありながら，「バイエル」とどのように違い，どのような表現が求められているのかを知るために，次の表で全25曲のタイトル，調性，拍子，速度・表情記号を一覧にした。

25曲のうち18曲が長調で，♯や♭の数が0個または1個のものが18曲あり，調性の面から見ても初級者にとって比較的簡単に学習が可能である。拍子も初級者にとってなじみよい4分の4拍子11曲，4分の3拍子6曲，4分の2拍子3曲，8分の6拍子5曲となっている。曲頭に示される速度・表情記号を見ると，個々の曲の表情を演奏するための指示があり，15曲が練習曲に良く見られる Allegro 表示である。しかし，同じ速度表示 Allegro にも moderato, non troppo, scherzndo, vivace, ,molto agitato, con brio などとさまざまなニュアンスの用語が付けられている。推奨される数字による速度指定もあるが，これはおおよその目安として捉える

ブルグミュラー　25の練習曲　作品100

番号	題名	調性	調号数	拍子	速度・表情記号	速度原典（現代ピアノ推薦）
1	素直な心	C	0	4/4	Allegro moderato	♩ =152(126-138)
2	アラベスク	a	0	2/4	Allegro scherzando	♩ =152(126-132)
3	パストラル（牧歌）	G	#1	6/8	Andantino	♩. =66(56)
4	小さな集い	C	0	4/4	Allegro non troppo	♩ =152(120-126)
5	無邪気	F	b1	3/4	Moderato	♩ =112(100)
6	進歩	C	0	4/4	Allegro	♩ =132(120-126)
7	清らかな流れ	G	#1	4/4	Allegro vivace	♩ =176(132-138)
8	やさしく美しく	F	b1	3/4	Moderato	♩ =100(80-88)
9	狩	C	0	6/8	Allegro vivace	♩. =132(96-108)
10	やさしい花	D	#2	4/4	Moderato	♩ =152(116-120)
11	せきれい	C	0	2/4	Allegretto	♩ =138(120-126)
12	別れ	a	0	4/4	Allegro molto agitato	♩ =184(120-126)
13	コンソレーション（なぐさめ）	C	0	4/4	Allegro moderato	♩ =152(132-138)
14	シュタイアー舞曲(アルプス地方の踊り)	G	#1	3/4	Mouvement di Valse	♩ =176(148-160)
15	バラード	c	b3	3/4	Allegro con brio	♩ =104(68-76)
16	ちょっとした悲しみ	g	b2	4/4	Allegro moderato	♩ =126(89-90)
17	おしゃべりさん	F	b1	3/8	Allegretto	♩. =72(63-66)
18	気がかり	e	#1	2/4	Allegro agitato	♩ =138(100-108)
19	アヴェ・マリア	a	#3	3/4	Andantino	♩ =100(76-84)
20	タランテラ	d	b1	6/8	Allegro vivo	♩. =160(126-132)
21	天使の合唱	G	#1	4/4	Allegro moderato	♩ =152(116-120)
22	バルカロール（舟歌）	As	b4	6/8	Andantino quasi allegretto	♩. =72(66)
23	再会	Es	b3	6/8	Molto agitato uasi presto	♩. =126(92-96)
24	つばめ	G	#1	4/4	Allegro non troppo	♩ =138(132-138)
25	乗馬	C	0	4/4	Allegro marziale	♩ =152(120-126)

べきものと考える。演奏に当たっては数字よりも言葉の意味の深い理解と，楽譜上での実践活用が求められる。そして何よりも大きな違いは，各曲に題名が付けられていることである。学習者はこれら具体的なタイトルの言葉を理解し，曲の持つ雰囲気やニュアンスを容易に想像することができよう。「ブルグミュラー」が，「バイエル」や「ツェルニー」[7)] に代表される基礎知識の習得や発展的技巧をめざす練習曲と違い，表現を重視していると考える一つの理由である。

一方で曲中では rit. や a tempo など速度変化に関する指示語，cresc. や dim.，アクセントなどの強弱変化記号が都度に細かに指示されている。また，より微妙なニュアンスを表す表情記号も適切に指示がある。曲によっては前奏，間奏，後奏があり，繰り返し記号（反復記号，D.C.，D.S.）も多く含まれ，構成の変化を目で感じることができる。また和声進行が比較的順当であり（機能和声），フェルマータを伴うクライマックスなどの設定があり，フレーズの構成も 2 小節，4 小節などの基本的なものである。これらの要素を演奏する際に，十分に注意を払い，書かれている通りに演奏すればおおよその形が出来上がるように作曲されているので，特に番号の前半の曲は初級者にとって取り掛かりやすいものである。これらの理由から，学生が「ブルグミュラー」の楽譜に忠実に，またそれを超えて自分の音楽になるよう演奏することは大変有用であると考える。

ところが，本稿 2．現状で述べたように，学生の大半が「ブルグミュラー」まででピアノ学習を終えて卒業し，あるいはもう一歩進んで「ソナチネ　アルバム」の中からいくつかを学習したとして，大部分の学生はバロック後期（バッハ），古典派（ハイドン，モーツアルト，ベートーベン），ロマン派（ショパン，シューマン，リスト，メンデルスゾーンなど）の作品のみを学習しており，近代・現代の作品に触れるのは一部の学生でしかない。

このことは，初心者が基礎的な技術や知識を身に付け，より大きな表現力を獲得する上での手順としては大きな問題はないが，表現を豊かにする観点から考えると，同一作曲家の作品や同じ時代の同傾向の作品のみを学習することは，いささか偏りがあるように思われる。学生の実技テストは，自身の演奏で評価を得るためではあるが，同時に他学生の演奏を聴くことで，新たな作品を知り，また他者の音楽表現を知る絶好の機会であるので，同じ作曲家の作品に限らず，自分で次はチャレンジしたいと思える曲の紹介する機会としたい。そこでより表現の幅を広げることを考え，時代，国を違えた同レベルの作品を学習することを考える。

4．カバレフスキー　子どものための小曲集　作品27

ロシア（当時ソヴィエト連邦）の作曲家カバレフスキーの「子どものためのピアノ小曲集作品27」[8)]（以後「カバレフスキー」と表記する。）を取り上げた。

2．現状で述べたように，教則本的な「バイエル」，「ブルグミュラー」，「ソナチネ　アルバム」，「ソナタ　アルバム」以外の曲を，3 学期間を通して演奏した学生は全体の 8 ～16%であ

り，総数も少ない。しかしまれに指導者の配慮により初級者が「カバレフスキー」や「ギロック」[9)] や邦人作曲家の曲を演奏していることがわかる。

ここでは「カバレフスキー」について述べる。3.「ブルグミュラー」と同様に作品の番号順に一覧にしたものが次の表である。大きな違いはこの作品27は「練習曲」ではなく，「子どものための小曲集」と名付けられるところである。20世紀には広く子どもの音楽教育が普及しており，子どものための作品が多数の作曲家たちにより作られた。ドミトリー・カバレフスキー（1904～1987）は，自身でも学校での音楽教育にも関わり，子ども向けの優れた作品を多く残した。これらの作品は近・現代の作曲家としては，他の作曲家と比べ和声的にも伝統的な音階が使用され，作風は強い民族色よりも都会的であるので，子どもはもちろん大人の初心者にも受け入れられ良い。学習者がこれまでに体験していない不協和音や変則拍子やリズムに悩むこ

ブルグミュラー　25の練習曲　作品100

番号	題名	調性	調号数	拍子	速度・表情記号
1	ワルツのように	G	#1	3/8	Allegretto cantabile
2	小さい歌	e	#1	4/4	Andantino
3	エチュード	a	0	4/4	Allegro vivace
4	川辺の夜	h	#2	3/4	Andantino
5	ボール遊び	D	#2	3/8	Vivace leggiero
6	かなしい物語	f	b4	2/4	Cantabile
7	むかしのおどり	a	0	3/4	Tempo di Menuetto
8	子守歌	a	0	2/4	Moderato catabile
9	小さな童話	g	#1	4/4	Allegro moderato
10	おどけ	F	b1	6/8	Vivace
11	ロンド	c	b3	4/4	Moderato
12	トッカティーナ	a	0	2/4	Allegretto
13	いたずら	C	0	2/4	Vivace leggiero
14	スケルツォ	h	#2	3/4	Allegro scherzando
15	マーチ	B	b2	2/4	Tmpo di marcia Allegro
16	バラード	cis	#4	4/4	Andantino con moto
17	芝の上のおどり	C	0	4/4	Andantino
18	ソナチネ	a	0	4/4	Allegretto
19	戦士の踊り	f	b4	4/4	Allegro energico
20	みじかいお話	Es	b3	4/4	Andantino cantabile
21	ついせき	g	b2	2/2	Allegro moderato
22	物語	fis	#3	2/4	Andantino
23	吹雪	g	b2	2/4	Presto
24	エチュード	F	b1	4/4	Allegro marcato
25	ノヴェレッテ	d	b1	6/8	Molto sostenuto
26	エチュード	A	#3	2/4	Allegro
27	おどり	d	b1	2/4	Moderato scherzando
28	気まぐれ	E	#4	2/4	Andantino
29	騎士	b	b5	2/4	Allegro molto
30	ドラマティックな小曲	f	b4	2/4	Grave

となく，自然に音楽に入ることが可能だと考える。また「ブルグミュラー」と同様に，具体的なタイトルがあり，演奏時にイメージすることが容易である。

調性は長調が10曲，短調が20曲と全体30曲中で明らかに短調が多い。カバレフスキーがスラブ系作曲家であるからなのか，近代という時代背景からくるものかはわからないが，一つには，民謡などの旋律は西欧（東欧やロシアに対しての）においてよりも，憂いを含んだ短調の旋律がよく見られるからではないかと思われる。テンポの速い曲においても短調で作曲されており，緩徐曲のみならずより多種類の曲想，情感を表現することが可能となり，作曲者の意図するところではなかったかと考える。

調性の種類は「ブルグミュラー」に比べ多く，♯４つ，♭５つまでを長・短調両方で用いている。このため，演奏時に調性の持つ音色の変化を，より多く経験することが可能である。反面，譜読みが複雑になるのだが，響きが現代的な分，学生にはなじみよく楽しめる部分も大きい。指導者が学生の能力に応じた選曲を行えば問題は生じないであろう。

拍子は４分の４拍子10曲，４分の３拍子３曲，４分の２拍子12曲，２分の２拍子１曲，８分の６拍子２曲，８分の３拍子２曲であり「ブルグミュラー」と同様に基本的であるが，４分の２拍子が圧倒的に多く，２分の２拍子の曲も含まれており「ブルグミュラー」に比べ変化がある。

速度記号は Grave, Andante, Andantino, Allegretto, Moderato, Allegro, Vivace, Presto と多種類の表記を用いている。練習曲ではなく「子どものための小曲集」ということもあり数字での速度表記はない。速度記号の持つ「はば」を考えての演奏が可能である。

表情記号においても　cantabile, leggiero, scherzando, Tempo di Menuetto, Tempo di Marcia, con moto, energico, marcato, sostenuto などより多彩である。これらの速度・表情記号は曲全体の雰囲気を知る上で大きく役立つのは明らかであるが，学生が言葉の意味を知らない場合は，指導者はただ言葉の訳や意味を伝えるだけでなく，自ら調べることを促すことが必要であろう。「７番　むかしのおどり」で Tempo di menuetto が「メヌエットのはやさで」と訳されても学生にとっては実感が伴わないことは明らかである。メヌエットは３拍子で踊られる古典舞曲の一つであり，向かい合って接近して踊るワルツとは違い，男女が離れてゆっくりと踊る宮廷舞曲であることを知ればゆっくりのテンポを想像するヒントになる。

「１番　ワルツのように」を例にとると，右手アウフタクトで始まる８分音符と４分音符で作る１つの定音型と，左手はスラーで結ばれた２つの８分音符と１つの８分休符が，全曲を通して繰り返される。最終小節を除いて，常時同じ音型で奏される左右の音は，分散和音を作っており，運指の動きの少なさや，同じ腕の動きを保つことから，演奏中，より響きへの集中力を高くすることを可能にしている。曲中ゲネラルパウゼは１箇所もなく楽譜上はただ休みなく弾きつづけるように思いがちだが，音の響きを聞くことで和声進行を感じ，フレーズを捉えることが可能になる。「ブルグミュラー」のように，フレーズの切れ目や区切りの終止に休符が

用いられなくとも歌の切れ目を感じ取ることができる。そうすればブレスがあるのは休符が書かれたところだけではないことが理解できる。

このように，学習者は違った作曲家の新しい作品を一つ一つ学習することにより，音楽の持つ表情の多種多様さを知り，感じることになる。ここでは「ブルグミュラー」と同程度の難易度の「カバレフスキー」を取り上げたが，「ブルグミュラー」のように昔からあるピアノ学習の常套の古典派，ロマン派だけでなく，現代の学生たちにより身近に感じられる作品（ギロック[9] 1917～1993，ハチャトリアン[10] 1903～1978，ショスタコービッチ[11] 1906～1975，湯山昭[12] 1932～ほか）に接する機会をより多く設けていくべきであると考える。

５．おわりに

以上のことから，初級者の学習過程においては，基礎知識や技術習得のため，ある程度一貫した教則本の修得が必要である。しかし教則本が後半に近づいた頃には，音楽を多方面から捉える必要があり，そのためにも多様な作曲者の作品を取り入れることが望ましい。

先にも述べたように，音楽教育においては，技術力と表現力が同等に必要である。特に幼児教育や保育の分野では，授業で学んだクラシックの作品を演奏することが目的ではなく，日々の歌や律動などでの場面で，また時に音楽会，生活発表会においてピアノを演奏するのであるから，多種多様な場面に対応できる経験と応用能力が求められる。

音楽の表現は一律ではない。「ハッとするような驚き」が，喜ばしいものか，悲しいものか，警告からくるものか，突然の外的刺激なのか，自分の心の変容からくるものか，原因がそれぞれに違っているように，音の感じ方が一人ひとり違い，表現もさまざまである。それらを知るには，限られた授業時間であっても，できる限り多くの作曲家の多くの作品を学習し自身が共感を持って演奏する体験が必要である。将来保育の現場で子どもの心や感性を育むことができる音楽を表現するために，学生がその体験を如何に多く持つかが重要であろう。

本学の「音楽（器楽）」の授業で，より多くの選択肢を提示して，学生にとっては普段あまり耳にすることの少ない作品も含めて紹介することが，楽譜からその場面が読み解く力をつけ，ピアノ演奏の表現力をより深く習得することにつながっていくと思われる。

参考資料

１）表現のためのピアノ曲集　小阪恵一著　全音楽譜出版社
２）こどものうた200　小林美実編　チャイルド本社
３）標準バイエルピアノ教則本　作品101　全音楽譜出版社
４）ブルグミュラー25の練習曲　作品100　全音楽譜出版社
５）ソナチネ　アルバム１，２　全音楽譜出版社
６）ソナタ　アルバム１，２　全音楽譜出版社
７）ツェルニー100番練習曲　作品139，30番練習曲　作品849　全音楽譜出版社

８）カバレフスキー子どものためのピアノ小曲集　作品27　全音楽譜出版社
９）ギロック　子どものためのアルバム，叙情小曲集　全音楽譜出版社
10）ハチャトリアン　子どものためのアルバム第１集，第２集　全音楽譜出版社
11）ショスタコービッチ　ピアノ作品集　人形の舞曲，子どもの音楽帳　全音楽譜出版社
12）湯山昭　ピアノ曲集お菓子の世界　全音楽譜出版社